

令和２年度に研究所が実施する研究課題等に係る意見について

機関名		担当者名	
電話番号		e-mail	

※アンケートサーバーに直接回答もしくは本様式をダウンロードしメールで御回答ください。

本研究所の研究課題の研究計画・内容の改善、研究課題の精選のために、下記について御意見をいただきたく存じます。

1. 令和２年度から新たに行う研究課題及びその概要についての御意見

資料１「令和２年度研究課題」にお示ししている新規の研究課題について、どのような研究成果を望まれるかについて御意見がございましたらお聞かせください。

(※該当する研究課題の□にチェックを入れ、研究概要下欄の枠内に御意見をお書きください)

☐ 特になし

☐ 研究課題名：我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究

研究期間	5年（平成28年度～令和2年度）
〈概要〉 インクルーシブ教育システムの構築は国の重要な政策課題であり、各地域や教育現場においては、その取組を着実に進めることが求められている。こうした動向を受けて、本研究所では、5ヶ年計画で「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」を実施している。過去4年間の研究では、教育委員会と園・学校を対象にインクルーシブ教育システムの構築状況に関する調査等を行い、その結果を踏まえて地域や自校（園）のインクルーシブ教育システムの構築のための取組状況や課題、強みを把握し、今後の取組方策を検討するための手掛かりとなるツール（「インクルーシブ教育システムを推進し、主体的な取組を支援するための観点」通称「インクル COMPASS（試案）」）を作成した。令和元年度は、実際に「インクル COMPASS（試案）」を使用してもらい、園・学校の実情に即した「インクル COMPASS（試案）」の活用事例を提案する予定である。 その上で、本研究のまとめとなる最終年度（令和2年度）は、以下の2点について検討することを目的とする。1つ目は、園・学校での取組を踏まえて、教育委員会用「インクル COMPASS（試案）」を作成し、その活用の在り方を検討する。2つ目は、これまでの研究を総括し、教育委員会や園・学校が、インクルーシブ教育システムの構築のための主体的な取組を見出すためには何が大切であるかについて検討することを目的とする。 本研究成果としては、「インクル COMPASS（試案）」（本ツールの活用についての解説を含む）活用事例集を作成する。具体的な実践を掲載する本事例集は、地域や園・学校で期待される取組の方向性を示唆し、教職員等のインクルーシブ教育システムに対する理解の深化と意識の高揚につながるものである。	

--

☐ 研究課題名：「ことばの教室」における多様な子供の実態と指導内容に関する研究

研究期間	2年（令和2年度～令和3年度）
〈概要〉 言語障害教育においては、例えば「主訴は構音障害であるが身のこなしにぎこちなさがある子供」のように、主訴以外にも教育的ニーズのある子供たちが多く存在している。こうした子供たちに構音指導を行うだけでは指導として不十分であるが、ことばの教室では手探りでの指導がなされている現状である。 そこで、本研究では、従来の言語障害教育の知見に、作業療法等の医療分野や発達障害教育等の他領域の研究成果を加えながら、こうした子供たちの実態や教育的ニーズの把握方法や指導内容について再検討を行う。研究の成果は、教育現場に対し、多様な幼児児童生徒の実態に対応するための知見として提供するとともに、教育行政に対し、通級による指導の検討のための基礎資料として提供する。	

--

☐ 研究課題名：自閉症のある子供の実態に応じた教育課程に関する研究－連続性のある学びを目指して－

研究期間	2年（令和2年度～令和3年度）
〈概要〉 小・中学校学習指導要領（平成29年3月）では、特別支援学級における特別の教育課程において自立活動を取り入れることが規定され、特別支援学級に在籍する全ての子供に対して個別の指導計画の作成が義務づけられた。特に、原則、当該学年の内容を学習することになっている自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある子供については、教科等の指導や交流及び共同学習との関連を図った自立活動の指導が不可欠である。さらに、このような自閉症のある子供の自立活動の指導をより充実させるためには、個別の指導計画を作成するにとどまらず、それを適切に活用していくことがますます求められる。	

そこで、本研究では、小・中学校自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある子供の自立活動の指導に焦点を当て、自立活動の時間における指導と他の教育活動（教科指導や交流及び共同学習等）との関連を踏まえた指導について実践的に検討する。加えて、個に応じた指導と個々の学びの連続性を担保する上で重要となる個別の指導計画の効果的な活用についても検討することを目的とする。

研究成果としては、本研究で得られた実践と当研究班がこれまでの研究で蓄積してきた自閉症のある子供の自立活動の指導実践を総括して、事例集を作成する。本研究成果は、特に特別支援学級の経験年数の浅い担当者の指導力と専門性の向上、そして、自閉症のある子供の自立活動の指導の充実に寄与する。加えて、特別の教育課程の編成・実施の参考となる具体的な資料を提供する。

2. 令和2年度以降に実施する必要があると考えられる研究課題についての御意見

資料2「第4期中期目標期間における研究計画」を御覧いただき、計画されている研究テーマ以外で、令和2年度以降に実施する必要がある、重要性・緊急性の高い課題の御提案等がございましたらお聞かせください。

【付記】

資料2「第4期中期目標期間における研究計画」にある令和2年度実施の「重複障害のある子どものニーズに応じた教育の充実に関する研究」については、当初、令和元年度から実施予定でしたが、予定を変更し、令和2年度から実施することにしたものです。この研究については、前年度の調査において皆様から御意見をいただいておりますので、今回の調査では御意見を伺わないこととさせていただきます。令和元年度は重複障害教育の現状と課題に関する調査を行うこととし、基幹研究としては令和2年度から、前年度にいただいた御意見、令和元年度に実施する調査等を踏まえ、実施する予定です。